

## 五月の日光

むく／＼として自然のい、ちの盛りあがる土に、草も木も、生育の力に張り切つてゐないものはない。しかも、盛りあがる土のい、ち、に晴々と笑みかけて、一切の生育を思ひのまゝに遂げさせてゐるものは、五月の日光である。

うつとりと蒸し育てる春の日でもなく、厳しく促し立てる真夏の日でもなく、たゞ自ら明るく、自ら爽かに、ひろ／＼と打ち拡がつてゐる五月の空である。その下にこそ、若葉も潤達の意気を与へられ、若芽も進展の気力をのび／＼とさせられてゐる。

強ひて育てるでもない。激しく励ますでもない。たゞ自らわだかまりなき明朗さにあて、育つものを育たせてゐるのが五月の日光である。

## 六月

外には雨が降りつゞけてゐる。部屋の内は笑ひ声で晴れわたつてゐる。窓硝子はぬれて曇つてゐるが、子ども達の顔はみんな明るく輝いてゐる。外からの光でなく、内からの光である。天の太陽は雲につゞまれる日があつても、こゝの小さい太陽達は、いつだつて好天氣だ。

その子どもらに、またしても鬱陶しそうな顔をして見せるのはおとなだ。なぜかう降るのかと、言つても仕方のないかこちごとを言つて、呟いて聞かせるのもおとなだ。——子どもは、知らなくてもいゝことを、おとなから教へられることが屢々ある。六月の雨だつて、おとなが教へなかつたら、子どもには少しも苦にならないものであらう。

(倉橋惣三『育ての心』より)

幼児の教育 第七十九巻 第七号

七月号 ◎ 定価二五〇円

昭和五十五年六月二十五日 印刷  
昭和五十五年七月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行人

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一九六四〇番

◎ 本誌御購読についての御注文は発売所  
所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら、おとりかえいたします。